

株主のみなさまへ

2010

JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社
第3期 中間決算のご報告 2010.4.1-2010.9.30

平成22年12月



JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社

代表取締役会長 兼 社長
執行役員最高経営責任者 (CEO)

河原 春郎

株主の皆様にはますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。

当社は、9月30日をもって第3期中間期を終了いたしましたので、ここに中間決算のご報告を申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、新興市場を中心に一部の国や地域では回復が見られたものの、先進国を中心とした景気対策の一巡や、為替変動、デフレ基調など先行きが不透明な経済状況が続きました。

こうした状況の下、当社グループにおける第2四半期連結累計期間は、強化事業であるカーエレクトロニクス事業や業務用システム事業が想定以上の成果をあげたことに加え、全社でのコスト削減が進み想定以上に損益改善が進んだことから、全事業セグメントの営業利益が想定を上回りました。このため、全社の損益は前年同期比で大幅に改善し、営業利益は前第4四半期に続いて、当第1四半期、当第2四半期と3四半期連続で経営統合後の最高益を更新し、経常利益は当第1四半期、当第2四半期と2四半期連続で黒字となりました。

当中間期(第2四半期連結累計期間)の概況をご報告いたします。

売上高 **1,765億89百万円**

当第2四半期連結累計期間は、円高にともなう海外売上高の円換算による減少が生じたものの、カーエレクトロニクス事業では、市販分野、OEM分野のそれぞれで販売が好調に推移し、前年同期の売上高を上回りました。また、業務用システム事業では、業務用無線機器分野を中心に受注が回復し、前年同期並みの売上高となりました。

一方、ホーム&モバイルエレクトロニクス事業は、円高の影響に加え、欧米でのディスプレイ分野の絞り込みやカムコーダー分野の販売減少により、前年同期の売上高を大きく下回りました。エンタテインメント事業は、ヒット作品を輩出しましたが、市場縮小の影響により前年同期の売上高を下回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比で約267億円減(13.1%減収)の

1,765億89百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間は、円高の影響による海外売上高の大幅な目減りが生じましたが、円高の影響を除いた現地通貨ベースの売上高はほぼ期初の想定どおりとなり、カーエレクトロニクス事業や業務用システム事業の販売回復が、ホーム&モバイルエレクトロニクス事業の絞り込みなどによる売上減少やエンタテインメント事業の売上減少の一部を補いました。

営業利益

53億83百万円

当第2四半期連結累計期間は、カーエレクトロニクス事業が高収益を持続しました。業務用システム事業は、業務用無線機器分野の収益性が回復したことに加え、ビジネス・ソリューション分野の損益が原価や固定費などのコスト削減により改善したことから、事業全体でも収益が大きく伸長しました。

また、ホーム&モバイルエレクトロニクス事業は、前期に実施した事業構造改革による固定費削減などの効果により、損益が大きく改善しました。エンタテインメント事業でもヒット作の輩出やコスト削減による損益改善により、前年同期の赤字から黒字に転換しました。

この結果、前第4四半期に続いて、当第1四半期、当第2四半期の営業利益が3四半期連続で経営統合後の最高益を更新し、当第2四半期連結累計期間の営業利益は、期初の想定を大きく上回り、前年同期比で約132億円の改善となる53億83百万円となりました。

なお、為替については、対ユーロの円高では利益が減少しますが、対米ドルの円高では利益が増加する構造となっております。

経常利益

21億30百万円

当第2四半期連結累計期間は、営業利益の大幅な改善や為替差益による営業外収支の改善により、当第1四半期、当第2四半期の経常利益が2四半期連続で黒字となり、当第2四半期連結累計期間の経常利益は、前年同期比で約131億円改善し、期初の赤字の想定に対して21億30百万円の黒字となりました。

四半期純利益

△31億93百万円

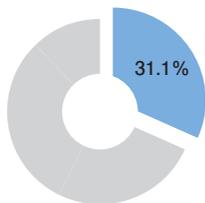
当第2四半期連結累計期間は、企業基盤の再構築に向けたアクションプランに沿った資産売却にともなう固定資産売却損(約22億円)のほか、遊休資産や会計システムの減損損失、資産除去債務、ピクチャーの過年度決算の訂正に関連した課徴金、その他合計約69億円の特別損失が発生しました。構造改革は計画どおり進んでおりますが、この特別損失は想定よりも少なくすんだことに加え、経常利益の大幅な改善やピクチャー本社の売却にともなう法人税等調整額の減少により、当第2四半期連結累計期間の四半期純損失は、期初の想定よりも大幅に縮小し、前年同期比で約137億円の改善となる31億93百万円となりました。

セグメント別状況 | Segment Review

セグメント別の売上高および営業損益は次のとおりです。

■カーエレクトロニクス事業

売上高構成比
(第2四半期累計)



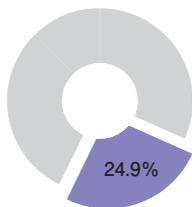
市販分野においては、円高の影響があったものの、統合によってコスト競争力が高まったカーオーディオ、カーナビゲーションシステムの販売が好調に推移し、アジアを中心とする新興国で販売が拡大したことに加え、欧米でもトップシェアを堅持しました。また、国内では、ケンウッドとビクターの統合開発によるフラッシュメモリータイプのカーナビゲーションシステムが販売に大きく貢献しました。

OEM分野では、純正商品およびディーラーオプション商品の販売が好調に推移したことに加え、受注が大きく伸びている車載機器用CD/DVDドライブメカニズムの出荷台数もさらに増加しました。

以上により、当第2四半期連結累計期間の売上高は549億93百万円、営業利益は46億61百万円となりました。

■業務用システム事業

売上高構成比
(第2四半期累計)



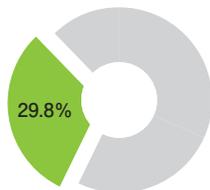
業務用無線機器分野は、最大市場である米国の公共安全向け投資予算が回復し、公共安全向けの受注回復が進んだことに加え、独自開発によるデジタル無線機の民間向け販売が大きく拡大したほか、中国、アジアなどでも販売が拡大したことから、売上高、利益が伸長しました。

ビジネス・ソリューション分野は、国内・海外の需要低迷が続きましたが、業務用ビデオカメラなどが好調に推移したことに加え、原価や固定費の削減による損益改善が想定を大きく上回り、営業損失は大幅に減少しました。

以上により、当第2四半期連結累計期間の売上高は440億円、営業利益は6億49百万円となりました。

■ホーム&モバイルエレクトロニクス事業

売上高構成比
(第2四半期累計)



ディスプレイ分野は、前期に実施した欧米での商品・販売チャネルの絞り込み、メキシコ工場の生産終息やタイ工場の合理化をはじめとする事業構造改革による固定費削減や損失処理などにより、前年同期に比べて売上高は半減したものの、営業損失は大幅に減少しました。

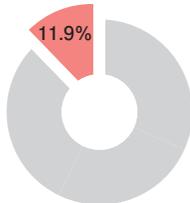
カムコーダー分野は、海外での販売が低調でしたが、国内での販売がエントリークラスのフルハイビジョンモデルの投入や新規販売チャネルの拡大により堅調に推移したことに加え、前期に実施したマレーシア工場の合理化、原価低減をはじめとする事業構造改革の効果により、前年同期に比べて売上高は縮小したものの、営業損失は半減しました。

また、ホームオーディオ分野は一部商品の絞り込みの影響から売上高は縮小しましたが、わずかな赤字にとどまり、ヘッドホンやイヤホンなどのAVアクセサリ分野は、高い収益性を堅持しました。

以上により、当第2四半期連結累計期間の売上高は525億41百万円、営業損失は6億74百万円となりました。

■エンタテインメント事業

売上高構成比
(第2四半期累計)



ソフトビジネスは大型作品の発売延期や絞り込みの影響がありましたが、コストに音楽関連のヒット作品を輩出したことに加え、旧譜やアニメ関連の販売が好調に推移し、コスト削減も進みました。受託ビジネスは受注が伸び悩みましたが、固定費の削減などにより損益が改善しました。

以上により、当第2四半期連結累計期間の売上高は210億40百万円、営業利益は8億60百万円となりました。

バランスシート / キャッシュ・フローについて

総資産は、売上債権などの流動資産が約78億円減少したことに加え、ビクター横浜工場などの有形固定資産の売却などによる資産圧縮により、前連結会計年度末比で約272億円減少し、2,475億37百万円となりました。

有利子負債（借入金と社債の合計）は、資産売却による資金で金融機関からの借入金を返済したことなどにより、前連結会計年度末比で約82億円減少し、1,001億26百万円となり、負債合計も前連結会計年度末比で約188億円減少し、2,090億96百万円となりました。

また、ネットデット（有利子負債から現金及び預金を控除した額）は前連結会計年度末比で約171億円減少し、477億36百万円となりました。

株主資本合計は、当第2四半期連結累計期間において純損失を計上したことなどから前連結会計年度末比で約22億円減少し、604億6百万円となりました。

純資産合計は、株主資本の減少に加え、前連結会計年度末に対して米ドル・ユーロなどの主要通貨が円高になり海外関係会社への出資などに係る為替換算調整勘定が約55億円減少したことなどにより、前連結会計年度末比で約84億円減少し、384億41百万円となりました。また、自己資本比率も前連結会計年度末比で1.5%低下し、15.2%となりました。

当第2四半期連結累計期間において営業活動により増加した資金は116億63百万円となり、前第2四半期連結累計期間に対して約26億円収入が増加しました。主な要因は前年同期比で、たな卸資産の増減額の増加約84億円、仕入債務の増減額の減少約63億円などがあったものの、税金等調整前四半期純損失の減少約109億円や売上債権の増減額の減少40億円による収入の増加に加え、構造改革引当金約27億円がなくなったことなどによるものです。

当第2四半期連結累計期間における投資活動により増加した資金は72億34百万円となり、前第2四半期連結累計期間に対して約81億円収入が増加しました。主な要因は、有形固定資産および無形固定資産の取得による支出が約23億円減少したことに加え、ビクター横浜工場などの売却により、有形固定資産の売却による収入が約55億円増加したことによるものです。

当第2四半期連結累計期間において財務活動により支出した資金は78億47百万円となり、前第2四半期連結累計期間に対して約83億円支出が減少しました。主な要因は、短期借入れによる収入が約134億円減少したものの、社債償還による支出が約215億円減少したことによるものです。

なお、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、523億27百万円となりました。

中間配当について | Interim Dividend

中間配当について

当社では、安定的に利益還元を行うことが経営上の最重要課題の一つと考え、収益力および財務状況を総合的に考慮して剰余金の配当およびその他処分などを決定することとしています。

この方針に基づき、当期の中間配当につきましては、業績の回復に向けて経営資源を集中するため、誠に遺憾ながら、期初予想のとおり見送らせていただきます。

今後も株主の皆様のご支援とご期待にお応えできるよう、全社一丸となって邁進いたしますので、株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結財務諸表 | Consolidated Financial Statements

■ 四半期連結貸借対照表 (要旨) 当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)

(単位: 百万円)

| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
|--------------------|----------------|----------------------|----------------|
| (資 産 の 部) | | (負 債 の 部) | |
| 流 動 資 産 | 155,250 | 流 動 負 債 | 162,208 |
| 現金及び預金 | 52,389 | 支払手形及び買掛金 | 28,596 |
| 受取手形及び売掛金 | 50,882 | 短期借入金 | 79,206 |
| 商品及び製品 | 29,896 | 未払費用 | 32,870 |
| 仕掛品 | 4,036 | 未払法人税等 | 1,976 |
| 原材料及び貯蔵品 | 8,293 | 製品保証引当金 | 3,473 |
| その他 | 11,479 | 返品調整引当金 | 1,562 |
| 貸倒引当金 | △ 1,727 | その他 | 14,522 |
| 固 定 資 産 | 92,008 | 固 定 負 債 | 46,887 |
| 有 形 固 定 資 産 | 63,296 | 社 債 | 20,000 |
| 建物及び構築物(純額) | 16,997 | 長期借入金 | 920 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 3,992 | 退職給付引当金 | 15,678 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 6,068 | 資産除去債務 | 861 |
| 土地 | 35,661 | その他 | 9,428 |
| 建設仮勘定 | 575 | 負 債 合 計 | 209,096 |
| 無 形 固 定 資 産 | 15,648 | (純 資 産 の 部) | |
| のれん | 5,092 | 株 主 資 本 | 60,406 |
| ソフトウェア | 7,562 | 資 本 金 | 10,000 |
| その他 | 2,993 | 資 本 剰 余 金 | 111,143 |
| 投資その他の資産 | 13,063 | 利 益 剰 余 金 | △ 40,473 |
| 投資有価証券 | 4,415 | 自 己 株 式 | △ 20,263 |
| その他 | 10,659 | 評価・換算差額等 | △ 22,698 |
| 貸倒引当金 | △ 2,011 | その他有価証券評価差額金 | 71 |
| 繰 延 資 産 | 278 | 繰延ヘッジ損益 | 33 |
| | | 土地再評価差額金 | 2,954 |
| | | 為替換算調整勘定 | △ 25,758 |
| | | 少数株主持分 | 733 |
| 資 産 合 計 | 247,537 | 純 資 産 合 計 | 38,441 |
| | | 負 債 純 資 産 合 計 | 247,537 |

連結財務諸表 | Consolidated Financial Statements

■ 四半期連結損益計算書（要旨） 当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）（単位：百万円）

| 科 目 | 金 額 |
|--------------------|---------|
| 売上高 | 176,589 |
| 売上原価 | 122,244 |
| 売上総利益 | 54,344 |
| 販売費及び一般管理費 | 48,961 |
| 営業利益 | 5,383 |
| 営業外収益 | 1,794 |
| 営業外費用 | 5,047 |
| 経常利益 | 2,130 |
| 特別利益 | 587 |
| 特別損失 | 6,881 |
| 税金等調整前四半期純損失（△） | △ 4,164 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,621 |
| 法人税等調整額 | △ 2,589 |
| 法人税等合計 | △ 967 |
| 少数株主損益調整前四半期純損失（△） | △ 3,196 |
| 少数株主損失（△） | △ 3 |
| 四半期純損失（△） | △ 3,193 |

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨） 当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）（単位：百万円）

| 科 目 | 金 額 |
|--------------------------------|---------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 11,663 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 7,234 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 7,847 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △ 2,523 |
| 現金及び現金同等物の増減額（△は減少） | 8,527 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 43,408 |
| 連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（△は減少） | 392 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 52,327 |

会社情報 | Corporate Profile (平成22年9月30日現在)

- 商号 JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社
(英文名: JVC KENWOOD Holdings, Inc.)
- 事業内容 カーエレクトロニクス事業、ホーム & モバイルエレクトロニクス事業、業務用システム事業、エンタテインメント事業等を営むこと、並びにこれに相当する事業を営む会社の株式又は持分を保有することによる当該会社の事業活動の管理
- 設立 平成20年10月1日
- 本店所在地 神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地

- | | | | | | | | |
|--------------|--------|--|--|------------|--|-------|--|
| ■ 取締役 | | | | ■ 監査役 | | | |
| 代表取締役会長 兼 社長 | 河原 春郎 | | | 監査役 | | 土谷 繁晴 | |
| 代表取締役 | 塩畑 一男 | | | 監査役 | | 加藤 英明 | |
| 取締役 | 不破 久温 | | | 監査役(社外監査役) | | 庄山 範行 | |
| 取締役 | 尾高 宏 | | | 監査役(社外監査役) | | 鷺田 彰彦 | |
| 取締役 | 相神 一裕 | | | 監査役(社外監査役) | | 黒崎 功一 | |
| 取締役 | 伊藤 裕太 | | | | | | |
| 取締役 | 江口 祥一郎 | | | | | | |
| 取締役(社外取締役) | 柏谷 光司 | | | | | | |
| 取締役(社外取締役) | 瀬尾 信雄 | | | | | | |

- | | | | | | | | |
|---|--------|--|--|--|--|--|--|
| ■ 執行役員 | | | | | | | |
| (兼)執行役員 最高経営責任者(CEO) | 河原 春郎 | | | | | | |
| (兼)執行役員 副社長 経営・財務改革、人事勤労担当 | 塩畑 一男 | | | | | | |
| (兼)執行役員 最高財務責任者(CFO)兼 経営戦略部長 兼 同部 渉外部長 | 不破 久温 | | | | | | |
| 執行役員常務 財務戦略部長 | 藤田 聡 | | | | | | |
| 執行役員常務 コーポレート戦略部長 兼 日本ビクター(株) 取締役 | 小宮山 正前 | | | | | | |
| 執行役員常務 統合シナジー推進部長 兼 J&Kカーエレクトロニクス(株) 取締役 | 多木 宏行 | | | | | | |
| 執行役員常務 新事業開発センター長 | 前田 悟 | | | | | | |
| (兼)執行役員常務 日本ビクター(株) 代表取締役社長 | 伊藤 裕太 | | | | | | |
| (兼)執行役員常務 (株)ケンウッド 代表取締役社長 | 相神 一裕 | | | | | | |
| (兼)執行役員常務 J&Kカーエレクトロニクス(株) 代表取締役社長 | 江口 祥一郎 | | | | | | |

※(兼)は取締役との兼務



ハイスピードレスポンスと豊富なデータ容量のコンビネーションでスムーズな操作感を実現

先進機能を搭載して日本の道を楽しむAVナビ 「アベニュー」

- (ナビ機能) 軽快な操作感、鮮明な地図表示、情報量が豊富な検索機能 分かりやすい誘導機能
- (AV機能) ワンセグ、CD & DVD再生、USB/SDスロット、フロントAUX、iPhone & iPod接続対応、「取付角表示調整機能」[バリエابل・カラー・イルミネーション]

ワンセグチューナー内蔵DVD/USB AVメモリーナビゲーションシステム

MDV-313

オープン価格



音楽の悦びは、コックピットで最高潮に達する

デジタルメディアとの親和性を極めたフラッグシップ モデル

- デジタルメディアとの親和性を極めたフラッグシップモデル
- 動画再生も可能3インチ液晶ディスプレイ
- 様々なフォーマットでの動画・音楽ファイルの再生が可能
- iPod/iPhoneをより使いやすく
- 充実した音質調整機能

MPEG4/WMV/H.264/MP3/
WMA/AAC/WAV対応デジタル
メディアランチャー

I-K99

希望小売価格: 42,000円



コンパクト&スリムボディながら、新構造で堅牢性を追求し、信頼の「2年保証」を実現

UHFデジタル簡易無線機

- コンパクトなデザイン
- 独自の「二重構造パネル」の採用で本体強度の向上を図り、「2年保証」(本体のみ)を実現
- 防塵・防水レベル [IP54/55/67]
- 最新デバイスの搭載で実現した低消費電力化 & 長時間運用
- 騒音環境下でも快適な高音質設計
- 見やすいバックライト付大型液晶

UHFデジタル簡易無線機

TCP-D201

オープン価格



ケンウッド伝統の使いやすさ、タフネスを継承しながら、先進の技術を搭載。TS-590誕生

基本性能を磨き上げた高性能HF機

- 高いパフォーマンスを誇る受信性能。驚愕の近接ダイナミックレンジ特性。
- さまざまな機能を実現化する、32bit浮動小数点DSP。
- 高品位な電波を放射する、高信頼の送信部。
- CW運用をサポートする多彩な機能。
- 優れた操作性、より快適な送受信。

HF/50MHz オールモードトランシーバー

TS-590

TS-590S (出力: 100w)、TS-590D (出力: 50w)、TS-590V (出力: HF 10W/50MHz 20W)

希望小売価格: 228,900円 技術基準適合証明取得機種



さらなる美しい響きを極めるために。進化したプレミアムモデル、誕生

ウッドコーンオーディオシステム

- 大口径14.5cm 異方性振動板ウッドコーン・ウーハーを搭載し、美しい響きを追求
- ピクチャーオフィシャルWebショップ「ピクチャーダイレクト」限定プレミアムモデル
- ワイドな音域を再現する4chアンプによる「ダイレクトドライブ方式」を採用
- 「ピクチャースタジオ」のエンジニアと連携した音質チューニングを実施

ピクチャーダイレクト限定商品 プレミアムモデル コンパクトコンポーネントDVDシステム **EX-A250**

(システム内容: SX-WD250、RX-A250、XV-A250)

オープン価格



コンパクトサイズながら高音質オーディオ“Kseries”の音質技術を継承!

iPhone/iPodの音楽も高音質で再生。デジタル・コネクションドックを搭載したワンボディシステム。

- iPhone/iPodの音を表情豊かに再現するデジタル・コネクションドック
- Kseriesで培った音質技術を注ぎ込んだ、フルデジタルプロセッシング
- アンプ部の高精度な信号増幅を支える、電源分離構造
- 自然な音楽再生を実現する、MDFキャビネットスピーカー内蔵
- 迫力ある重低音を再生する、ロングエグゼースト・ダクト
- 自然な音の広がりを実現する、8cmフルレンジユニット
- 自然で立体感ある音場を再現するDTS Surround Sensation™
- 品位と剛性を兼ね備えた、高剛性アルミ材筐体

コンパクトHi-Fiシステム
U-K525
オープン価格



クリアなカラーボディにカラーイヤークラスとカラーコードを採用

密閉型インナーイヤークラスヘッドホン

- コーディネートが楽しめる8カラーをラインアップ
- クリアなカラーボディと、同色の“カラーコード&カラーイヤークラス”を採用
- 高音質サウンドを再生する“ネオジウムドライバーユニット”を採用
- 再生プラスチック100%使用のエコパッケージを採用

ステレオミニヘッドホン
HAFX11
オープン価格



映画を心ゆくまで堪能できる究極のホームシアターへ

D-ILAホームシアタープロジェクター

- 新光学エンジンの搭載により、明るさ (1300lm) とネイティブコントラスト (70000 : 1) を実現
- フレームシーケンシャル方式を採用し、3Dに対応
- オリジナルフィルムをより忠実に再現する当社独自の色再現技術「Real Color Imaging Technology」を搭載
- 動画性能を進化させた「新クリア・モーション・ドライブ」を搭載
- 「THX 3Dディスプレイ規格」認証を取得

D-ILAホームシアタープロジェクター
DLA-X7
希望小売価格840,000円



ブルー

ブラック

イエロー

コンパクトなポケットスタイルに高画質動画&写真撮影の充実機能

HDメモリーカメラ「PICSIO (ピクシオ)」

- 直感的な操作を実現する「3型・タッチオペレーション液晶モニター」を採用
- スナップ感覚の高画質“1920フルハイビジョン動画”&“5メガ静止画”撮影
- アップロードをより簡単にするオリジナルソフトウェア「LoiLoScope EX」を本体に内蔵
- パソコンとのダイレクトな接続を可能とする“USBプラグ”を本体に内蔵

HDメモリーカメラ
GC-FM2
オープン価格



プールで、海で、雪の中で大活躍 3m防水機能

HDメモリーカメラ「PICSIO (ピクシオ)」

- 水深3mで撮影可能な防水機能搭載 (JIS IPX8相当)
- 直感的な操作を実現する「3型・タッチオペレーション液晶モニター」を採用
- スナップ感覚の高画質“1920フルハイビジョン動画”&“5メガ静止画”撮影
- アップロードをより簡単にするオリジナルソフトウェア「LoiLoScope EX」を本体に内蔵
- ビジネスシーンでも活躍する“MP3ボイスレコーダー”機能を搭載

HDメモリーカメラ
GC-WP10
オープン価格

| | |
|--|--|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月開催 |
| 基準日 | 定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 上記基準日の他、基準日を定めて剰余金の配当をすることができます。 |
| 公告の方法 | 電子公告により行います。(http://www.jk-holdings.com) 当会社の公告は、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 |
| 上場証券取引所 | 株式会社東京証券取引所 市場第一部 |
| 証券コード | 6632 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 | 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 |
| 株主名簿管理人事務取扱場所 | 東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (郵便物送付先) | 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (電話照会先) | ☎0120-176-417 |
| (インターネットホームページURL) | http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html |
| <p>【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】 証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。</p> | |
| <p>【特別口座について】 株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。</p> | |
| <p>お問い合わせ先 JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社 経営戦略部 広報・IR担当 住所：〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地 電話：(045) 444-5232 (直通) Eメール：prir@jk-holdings.com URL：http://www.jk-holdings.com</p> | |